

保守と保身のなかみ

保守とは、正常な状態などを維持すること、旧来の風習・伝統を重んじ、それを保存しようとする事。また、保身とは、身の安全や地位・名誉などを保つこと（広辞苑）。これらの語意通りに解すれば、伝統を継承する保守や自由や平等、生命を守る保身は大事な事だ。必ずしも悪いことではない。ただし、ともに私利私欲のため過剰に保守し、保身することが問題なのだ。何が正常な状態か、何が旧来の風習・伝統の内容なのか、どの範囲で身の安全や地位・名誉などを保つのか。これらが問われることになる。

政党政治では保守 vs 革新、右派 v s 左派などと対立的に構図が描かれる。しかし、今どきは保守党のほうが、「革命・革新・改革」などと連呼していて、むしろ左派政党はこれらの言葉を避けているようだ。政策の中身をしっかりと分析しないと、保守 vs 革新の位置づけが明確にならない。保守が私利私欲による過剰な保身という内容ならば、敬意をもてない。演説は美辞麗句で飾られるが、それは何も実行されないもので、言葉は意味を失う。偉い人たちの日本語の言霊は立ち去って久しい。

社会的地位の高い国会議員や官僚、会社重役などの人々が虚偽や隠蔽によって保身を謀ることは、このくにの子供たちにとっても悪い影響を与える。高い地位の人々が嘘つきでも社会的に許されるのなら、子供や庶民にとってアンパンマンの公正や正義は無くなってしまう。

黍稷農季人は三つの謎を解きたいと言っている。第1 謎は、何故、現世の人々は先人の生活文化、庶民の歴史に関心がなく、先祖への敬意を失ったのか。第2 謎は、何故に自然文化誌研究会の環境学習活動は有耶無耶のうちに地域社会の有力者から四度も追放されてきたのか。第3 謎は、何故、地域住民は地域のために自由民権活動をした人々、また郷土を守るために戦死した人々を沈黙して助けず、敬意を表さず、忘却の穴に放り込んだのか（2018、民族植物学ノオト第 11 号）。

文福洞先斗はこの謎を解こうとして、次のように応じている。第一の謎の解、過剰な都市の便利に幻惑わされて、自然離れし、生業を忌避して、人間であることを自己疎外しているのだ。第二の謎の解、行政の仕事範囲を超えた成果が出て、村の変容に踏み込み始めたのが為政者に解釈されると、彼らの領分を侵犯し、面子を潰したとして、その後は弾き飛ばされるのだろう。自然を忘れた無知な都民が恥知らずに山村を軽視し、恩知らずに犠牲を強いてきたため、山民の誇りが痛く傷つき、脆弱になったからに違いない。第三の謎の解、明治維新の功罪のなかに隠蔽された「重罪」である。自由民権の徹底した弾圧（治安維持法）が恐怖を刷り込み、地域社会は沈黙したのだろう。また、足尾銅山鉍毒事件などは常民・市民を守るべき為政者に虚偽・隠蔽によって抑え込まれてきた（2017、ナマステ第 130 号）。

私たち以外にも事例はいくつもある。たとえば、A 村の自然学校 B の代表者が率直に語っていた。20 年ほど、村内で活動してきたが、まったく無視され続けた。やっと、

最近になって、古具を捨てる際に、使うかと聞いてもらえるようになったそうだ。C市のDさんは有機農業を始めて、親の借金も返済し、産業として成り立ち、海外からも視察に来、また招待もされるようになったが、彼の成功から学ぶ人は出ないで、やはり無視されてきた。

私がE村で、空き家を借りて、百姓をしたいと言ったら、Fさんに「あなたのような頭の良い人間は来るな。Gさんのようにすぐに村から出されてしまうぞ。」と諭された。私はもとより勉強もできずに、泣き虫だったので、頭が良いなどとうぬぼれてはいない。Bさんは長年の知人で、正直者だから、他意や悪意は微塵もない。Gさんは郷土資料館の非常勤職員だったと思う。熱心に生活文化の普及をしておいでだったので、何度か環境学習活動でお世話になった。とても誠実な人だった。

3つの謎を解く鍵があると思ったので、Fさんに率直に伺った。Fさんは町村合併に反対で、Gさんはそれに賛同していた。E村長は土建業者で、合併に賛成であった。郷土の伝統文化にも関心はない。そこで、よそ者のGさんを疎ましく思って、追放したようだ。500人ほどの人口にまで減り、限界自治体崩壊の危機にあるのに、村の為を真摯に思い、活動する人々を迫害するなんておかしいと思う。H町、I町、J村、E村で、いろいろな排除経験を受けてきた。志ある都市民・山民は仲良くしているのに、為政者は何故仲良くできないのだろうか。Fさんの意見では、地域おこし協力隊員は山の暮らしの生活文化も技能も知らない。役場職員は村外通勤者が多く、単に職業を求めてきただけで、その地域の持続継承や振興への志が低い。これらの人々は古老から学ぼうとしない。学校で教えられることが知識と思い、自ら学ぶことをせずに、古老の知恵は時代遅れで、聞くに足りずと思っているのだろうか。

追放・排除の理由を考えてみた。

1. 都市からくる若者の活動への猜疑的排除
2. 不特定の都市民の頻繁な来訪忌避
3. 都市民への不要な劣等感、屈折した嫉妬心
4. 地域内の土地所有や権力争い
5. 思想信条の対立、政治党派や私欲利権争い
6. 個人の人柄への感情的好悪 など。

これらの負の課題を解き、山村に豊かな暮らしを創るにはどうしたらよいのだろう。保守と保身のバランスをとって、寛大な心で、自律した友愛を育ててほしい。このくにの人々は孤独に耐えられず、孤立を恐れて思考停止、付和雷同するが、実際には他者を信頼できずに孤立を深めているのだろう。ここから脱却しなければ、地域社会の再生はない。人々は自然や歴史から学び、暖かい情理に添うべきだ。山民は厳しい自然に挑戦し、共存・共生して、誇り高く暮らしてきた。その生活や生業は三浦梅園が言う深山幽谷に美しく咲く紅の花である。どうか、山民は自然に挑戦する心、冒険心、勇気や誇りを、都市民に学ばせてほしい。弱くなったこのくにの人々の心の形を、V. ゴッホの言う

ような、大らかに咲く花のように楽しく、幸せに導いてほしい。(2017-12.11)